2025. 4. 18. (WED). **No.3**

校長室の窓から

『この子らと共に』～ For the students～

京都光華中学校高等学校
澤田　清人

『学びは何処にでもある』

今日は「学園花まつり」です。生徒が花を携えて登校するなど、朝から学校全体が華やかなムードになっています。学校の玄関には昨夕、花に飾られたお釈迦様の像が出され、それに誰もが自由に甘茶をかけられるようになっています。

さて、本日の式典に当たって生徒に配られた冊子の中の文章を紹介します。今一度読み返してみてください。

「天上天下唯我独尊」という言葉があります。釈尊（ゴータマ・ブッダ）が誕生した時の第一声として伝えられているものです。釈尊は生まれてすぐに話すほどの天才だった、そんなことを言っているのでありません。また、「俺がこの世で一番偉い」と威張っていることばでもありません。釈尊が生まれたことによって、はじめて明らかにされたことが「天にも地にも、唯、我、独りにして尊し」といういのちの世界でした。全世界を探してみても、これまでの歴史をたどってみても、私という存在は唯一であって誰とも代わることはできません。決して生まれ変わることのない、ただ一度の人生を生きているのです、役に立つ・立たないという「ものさし」によって、自分が交換可能な部品であるように思うのは、この唯一性を見失っているからです。また、「独りにして」と言われるのは、はだかのままで尊いということを表しています。学歴、地位、財産、業績などを身にまとって自分に価値をもたせようとするのは、自分の存在の重さに気づいていないからなのです。誰もが交換不可能な、かけがえのないいのちを生きている。これが釈尊の目覚めたいのちの世界でした。生まれてこなかった方がよいいのちなど一つもないということ、不要な存在は何一つないこと、それが釈尊が誕生を通して私たちに呼びかけられていることなのです。（中略）生まれや家柄で人にレッテルを貼ったり能力の有無でその人の価値を決めようとしたり、どんな経歴の持ち主かで善人と悪人とに振り分けたり、そんな人間の在り方がどれほどお互いを傷つけあっていくかをよく見ていたのが釈尊でした。それ故に、かけがえのないいのちに目覚めてこそ、お互いに優劣・善悪を争うことからはじめて解放されると呼びかけているのです。誰もが、どんな状況の中でもいきいきと生きていくことができる方法を釈尊は教えてくれています。（後略）

読めば読むほどにその奥深さが伝わってきます。私たちが日々の学校生活の中で大切に生徒たちに伝えたいことは、お釈迦様が既に２５００年も前に仰っていたということに改めて気づき、驚きと共に感動を覚えます。今日の「花まつり」に当たって改めて学びを得ることができました。「学び」は色々な所にあるということにも気づかされます。いえ、『学ぼう』という気持ちがどれだけあるかによるのかもしれません。

2025. 4. 11. (FRI). **No.2**

校長室の窓から

『この子らと共に』～ For the students～

京都光華中学校高等学校
澤田　清人

『Goal を見定めて　さあ！』

８日に始業式、９日に入学式を行い、令和７年度が本格的に始まりました。今は『いよいよか。よーし、頑張ろう！』という気持ちでいます。おそらく、私以外の教職員も、そして生徒のみなさんも同じような気持ちでいることだと思います。

さて、保護者や関係の皆様方にも知って頂きたく、始業式と入学式で生徒たちと共有した内容を要約して書き留めておきます。私が伝えたのは次の４つです。

一つめは、「一生の宝となる人間関係を築いてほしい」ということです。不登校や引きこもりなど、若者が学校や社会生活に不調をきたす件数が一向に少なくなりません。そして、その理由は、ほとんどが人間関係です。人間関係をうまく創ることは、大人になってからも役に立ちます。学校生活はそのトレーニングの場だと思ってください。あなたの周りにいる先生や先輩、友達の力を借りて、一生の宝物となるような人間関係を築いて下さい。

二つめは「確かな学力を身に付けてほしい」ということです。確かな「学力」を身に付けている人は確かな人生を手に入れていることが多いです。自分に合った進路を見つけ、是非とも、それに向けて頭を鍛えるという努力を怠らない人でいてください。

因みに、「学力」には目に見えるものとそうではないものとがあります。点数や進路は目に見える学力ですが、そうでない「学力」は「非認知能力」と言われるもので、「最後までやりぬく力」や「周りの人と協力できる力」などがそれにあたります。特に京都光華では、幼稚園から大学まで一貫してこの「非認知能力」をつけることに力を入れています。京都光華の教育と先生を信じて、確かな「学力」を身に付けてください。

三つめは「ゴールを定めてそれを目指し続けてほしい」ということです。ゴールとは「最終地点」ではありません。実はゴールという言葉にはもう一つ重要な意味があります。それは「目標」という意味です。貴女はどんな目標をもって京都光華へ入学してきましたか。今、貴女の中にある目標、つまり、ゴールを見失うことなく求め続けましょう。先にあげた頭を鍛えることに加え、この過程で心と身体が鍛えられます。

最後の四つめに今年度のキャッチフレーズを共有しておきます。「伝統を重んじつつ、果敢に挑戦する」です。京都光華には素晴らしい伝統がたくさんあります。それに誇りを感じ、大切にしつつ、新しいことに果敢に挑戦して、共に更に素晴らしい学校を創っていきましょう。みなさんと素晴らしいパートナーに成れることを願っています。

開校以来の学校大改革のゴールは「京都光華から Well-Being な社会を共創する人材を輩出する」ことです。この大目標に向けて勇気をもってさあ、動き出しましょう。

2024. 4. 4. (FRI). **No.1**

校長室の窓から

『この子らと共に』～ For the students～

京都光華中学校高等学校
澤田　清人

『新たなスタートに向けて』

校門の桜の木

３月の気温が低かったこともあって、校門の桜が今まさに満開の時期を迎えようとしています。明後日が雨の予報で少々心配ですが、この分なら始業式と翌日の入学式まで美しく咲き続けてくれるのではないかと期待しています。

さて、令和７年度がスタートしようとしています。実は教職員の間では既に始まっています。４月１日が私たち学校に勤める者にとってはお正月に相当する日で、当日の職員朝礼でもそのような話をしました。

今、学校では８日の始業式と９日の入学式に向けて着々とその準備を進めているところです。校長の重要な仕事の一つに校内人事を考えることがあります。新しい人事配置については昨年の１１月頃から考え始めました。その後、何度も検討を繰り返し、修正に修正を加えながら最終的に決定するのです。それが確定した今、新しい組織での会議が始まります。「どのクラスをどの先生が担当するのか」の授業配当をはじめ、学年や学級の経営方針や生徒指導のあり方などについても検討・確認されます。特に今年度は高校の制服が変わったことをはじめとして、来年度の大改革に向けての校則の見直しなどにも時間をかけました。授業のあり方や授業づくりの中で大切にすべきことについても時間をかけて協議・検討します。学校や生徒にとってはとても大事な部活動のあり方など、放課後の過ごさせ方についても時間を尽くして話し合います。

ザっとあげましたが、これ以外のことについても何日も話し合い、全体で、或いは部会で確認していきます。この過程を疎かにすると一年間が上手く回りません。

ところで、こういった会議をする過程で、教職員の頭には常に生徒の顔が浮かんでいます。一つひとつの話合いの中で違った生徒の顔が浮かんでくるものです。自分の受け持つ学級に在籍する“あの子”。授業で受け持つ“あの子”。頭に浮かぶその生徒の様子や予想される行動が、教職員が会議の中で意見を言う際の判断材料なのです。

そのような中、私は２６年度の大改革に向けて関係各所を訪問し、内容を説明したり助言をもらったりしているのですが、昨日訪れたところで頂いた助言に大きな力をもらいました。改革を実施しようとする際には、どうしてもその具体的な内容に意識が向くものです。「改革の内容が分かりやすいか」、「新入生にとって魅力的なものになっているか」等です。その点に助言を求めたところ、その方は次のように仰いました。

「そんな具体よりも、先生方の“やる気”と“自信”とが見えることが大事だと思います。京都光華には素晴らしい取組がたくさんあります。教職員全員が今やっておられる実践に自信をもって生徒を迎える姿勢こそが大事だと思います。」

大切なことに改めて気が付きました。生徒や保護者の方と一緒に、あらゆることに対して全教職員が自信をもって取り組める一年間になるよう十分に準備を整えます。